

## 新製品・新技術特集の発刊に際して

技術戦略推進室長

佐藤 裕子

Hiroko Sato



新製品・新技術特集の発刊に当たり、一言ご挨拶申し上げます。

“三菱重工技報”は、東京オリンピックが開催された1964年(昭和39年)6月1日に旧三菱3重工が合併した直後の7月に創刊して以来、本年で60巻を迎えることになりました。“三菱重工技報”は、合併前の3社でそれぞれ発行していた“技報”を継承し、“社内の研究開発の成果を内外に発表し、当社の技術に対してご理解を頂くとともに、社内技術者の研鑽の資とし、また社外からのご指導、ご批判を得て我々の指針とする”ものとし創刊しました。

創刊当時は高度成長期の真っただ中にありましたが、60年後の現在、私たちはVUCAの時代を生きています。VUCAは変動性(Volatility)、不確実性(Uncertainty)、複雑性(Complexity)、曖昧性(Ambiguity)の頭文字を取った言葉です。このVUCAの時代に新たな価値を生み出すためには、従来のやり方に固執せず、新たなアプローチにトライし続けることが必要です。当社グループは、長い歴史の中で培われた技術に最先端の知見を取り入れることで、人々の豊かな暮らしを実現してきました。これからも、社会課題の解決に貢献するため、新たな製品やサービスを提供すべく、挑戦を繰り返し、その成果をこの“三菱重工技報”で紹介してまいりたいと思います。

現在、気候変動問題が喫緊の課題であり、2022年11月に開催されたCOP27では、改めてグラスゴー気候合意(COP26)が再確認されました。また、新型コロナウイルス感染症の今後に対する不透明感、ロシアによるウクライナ侵攻を契機とする世界情勢の不安定化とエネルギー供給不安など、事業環境が急速かつ不連続に変化しています。

このような状況の下、国内外のお客様や地域社会とともに持続可能な社会の発展に貢献し続けるため、私たちは事業環境を取り巻く政治・経済・社会・技術の変化について、中長期視点で俯瞰し、想定される複数シナリオに基づいて事業の向かうべき方向性を見出し、新たなイノベーションを創出する“MHI FUTURE STREAM 活動”に取り組んでいます。この活動では、当社グループの役割として“いのちを守る”、“環境を守る”、“日々の生活を守る”ことを取り上げ、“脱炭素化”と“機械システムの電化・知能化”をキーワードに、事業シフト/新事業による成長戦略への展開を描いています。また、この活動を基盤に、電化・知能化を取り入れたイノベティブなキーコンポーネントを効率的に開発して、当社グループの成長領域であるエナジートランジションや社会インフラのスマート化に適用し、新たな価値の創造・提供を目指して、事業領域の拡大に取り組んでいます。

本号では、新製品・新技術に関する最近の成果の一端として、エナジートランジションで2件、社会インフラのスマート化で5件、安全安心な製品・サービスを支える基盤技術で10件の論文を紹介します。

本号が、私たちの活動へご理解を深めていただく一助になれば幸いです。

これからも、たゆまぬ技術開発を推し進めてまいりますので、ご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。